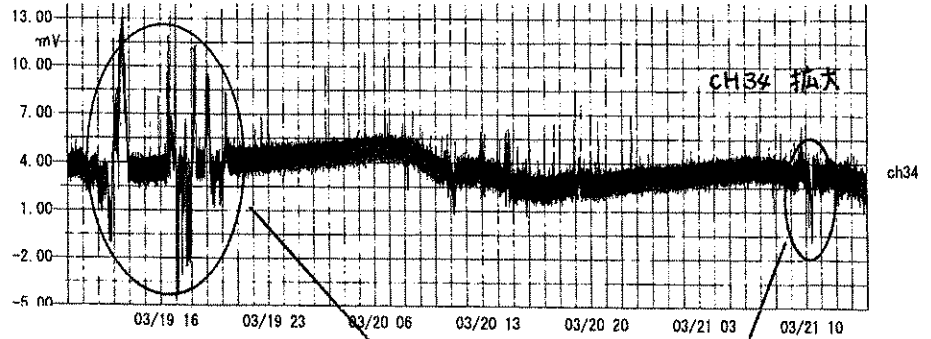


原稿校了後の前兆変化について

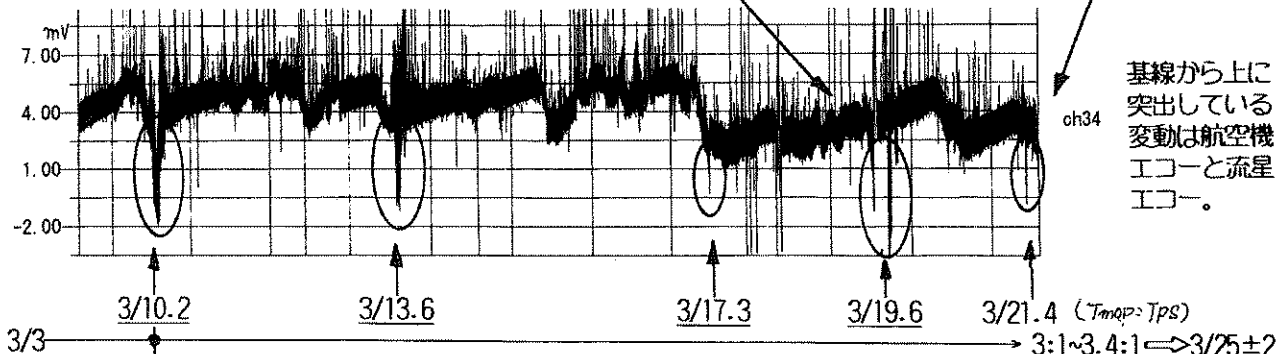
八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 3/25迄前兆消えない可能性 3/25±発生の可能性否定困難

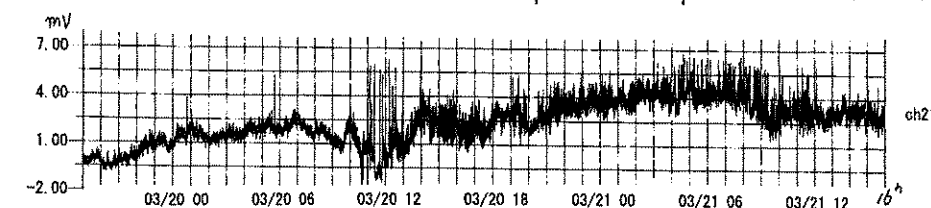
長期前兆No1778は、3/3より別形態前兆認識のNo2710と同期した小ピーク出現が観測されてきました。各小ピークは次の小ピークと主副極大関係にも見えます。この関係で各小ピークの間隔で計算しますと、下図下部に記した様に3月25日±時期を示す結果となっています。またこの関係が続いた場合、次小ピークは3/22に出現することになり、順次続いて出現した場合は3/25で止まる迄、小ピークが継続出現することになります。



右波形は八ヶ岳のCH34。楕円で囲んだ変動が小ピーク認識。下ピーク下線付はCH21も同期の為、両方の中心から求めた。



上述の認識が正しい場合、現在も継続している前兆は03月25日まで継続出現することになります。従って前兆終息を確認して、発生時期を求める経験則は使用できないこととなります。03月23日迄には終息が確認できる可能性がありましたが、前兆終息は見込めないため、終息確認からの経験則使用は不可能となります。現在出現している前兆は、



Na1778=CH21特異(弱い特異状態)
No2710=A1-BT(継続) A4特異(断続的微弱) CH34(ピークのみ)が主で少数になりました。現状、あくまでも状況証拠的根拠ではありますが、否定根拠も無いため、No1778第14行-と別形態No2710が示す時期が同じであることから、示される3月25日±に対応地震が発生する可能性は否定できないと思われる。

上波形はNo1778前兆のCH21基線。特異状態CH21は3/3に小ピークが出現し、3/19の小ピーク迄、No2710前兆と同期した小ピークが出現。しかし本日3/21の小ピークは認められません。従って、3/17又は19が最終ピークの可能性有。下のとおり3/24迄に終息の可能性有。本日のCH21は通常基線に近い値で基線を記録中。
・3/17が最終の場合=3/23.4終息の可能性
・3/19が最終の場合=3/23.9終息の可能性



◆推定領域：左図 太線領域内=大枠推定域
斜線領域=可能性が考え易い領域
7/ル 斜線=参考推定領域

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：No1778第14行-とNo2710が示す
時期=3月25日±1

◇推定地震種：震源が浅い陸域の地殻地震

◇推定発生時刻：午前9時±1
(又は午後6時±3)

①前兆が3/25迄継続出現の可能性があるため、前兆終息確認で発生時期推定計算と確認が不可能。但し3/25±発生を否定する根拠前兆は未確認のため3/25±発生の可能性は否定困難。

②3/27迄に発生が無い場合は3/25±に極大が出現する可能性有。その場合、発生はより先となるため、再考予定。